

泉谷津 (千葉県)

私は2歳のころから高校生まで、千葉県千葉市に住んでいた。今でも割と多くの緑が存在するが、越してきたばかりのころは高い建物やお店も少なく、空き地や公園が多い、言ってみれば田舎という表現に近い場所であった。そのような場所にある川がある。小さな川なので名前すらないが、大百池という池に続く小川である。周辺の地区は泉谷という地名で、これは昔、「泉谷津」と言われる大小36ヶ所もの湧き水が出る場所があり、そこからきている。



今年の年末に地元に戻った時に川を見に行った。寒い時期だったこともあるが遊んでいる子供たちは見当たらず、昔ほど川の水も透きとおっていない。ごみが落ちているし、流れが滞っている箇所もところどころある。自分がこの川を見に来たことが久しぶりだが、自分勝手にこの風景を殺風景で寂しいと思った。

小学生のころ、この川で本当によく遊んだ。ザリガニやメダカ、カメ、池の方には鯉がたくさんいた。川の中に入って捕まえたり、石に飛び乗って、どこまで進めるか競争したりした。もちろん落ちたことだってある。学校でこの川を写生したこともある。結構大きな公園で、春には桜が咲き乱れ、川に桜の花びらが舞い落ち、流れている姿はとてもきれいなので、大好きな風景だった。びっくりしたことが、このレポートを書くにあたって、この川や公園についてのホームページがあるかどうかしらべたところ、個人がこの公園を訪れて、その記録として何枚かの写真が掲載されているページを見つけた。どれも懐かしい風景だなあと見ていたところ、ザリガニの写真があり、石がアップになっていた。私はその石1つで、川のどのあたりにある石か、ということまで思い出すことが出来た。それほど私にとってその川の存在は大きかった。また、公園自体がホタルを見ることが出来たので少し有名だった。ホタルは川がきれいなところでないと生息できない。幼いころは年に1度のホタル祭りが大好きだった。ところが、今から10年ほど前、私が小学校高学年ぐらいのころにホタル祭りは中止になり、それ以降行われていない。川の汚染のためにホタルが減り、一時期はほとんど見る事が出来なくなってしまったのである。そのころは単にお祭りが無くなってつまらない、ということしか考えていなかったが、今思うと、私が越してきたばかりのころやそれ

以前は住宅地が少なかったが、どんどん家やアパートが増え、学校が増え、マンションが建ち、新しいショッピングモールも建設された。川にもゴミが目立つようになり、魚は見られなくなり、とても入ろうと思える水ではなくなってしまった。さらに今年久しぶりに地元に戻った時、駅前には新たに高層マンションが建ち、家の前の小さなアパートは壊され、そこにも高層マンションが建つ予定らしい。ホテルが住みづらい環境に変わってしまった。20年ほど前からは、明らかに自然は減り、建物が増えた。私が一番感じるのは、空が狭くなった、ということ。見上げて、空しかない、という場所がかなり減ってしまった。

この課題が出された時、私は真っ先にこの川が思い浮かんだ。生活の利便性と自然の大切さを訴えるために持ち出されるよくあるストーリーのようだが、本当に身近でこのような変化が起きていることに改めて気づかされた。この川は今、幸せではないと思う。土地利用が変わって、埋め立てられた、というわけではなく、人々の川に対する思いが変わってしまったのではないか。以前は「川はキレイに！」などという看板は無かった。そのようなものが無くても、子供は自然の中で遊び、ごみが落ちていて汚かった、という記憶は無い。それが今では汚いから遊ばない、大人も親近感がわかず、ポイ捨てにも罪悪感を覚えない、という悪循環が起きているのではないかと思う。私の思い出の川は、地図を見ても名前も載っていない小さな小さな川で、近くに住んでいる人でも大して思いいれがない人もいると思う。しかし小学生の私にとって自然の中で遊ぶ楽しさや、季節の移り変わりを教えてくれたものであると同時に、公園にとっても状態を保つ上で重要な役割を担っているはずである。中学生のころ、学校や地域によるごみ拾いをよくした記憶があるが、街中が中心のものが多く、川に焦点をあてたものは無かった。川は1度汚れると、元に戻すのが大変なのではないかと思う。

私はこの川が昔のように透きとおった流れになり、子供たちが遊んでいるような姿になってほしいと思う。ただ、衛生面の問題や、外で遊ぶことが減っている今の時勢では、それは難しいかもしれない。だが、きれいな川を取り戻すことに反対する人はいないのではないだろうか。そしてまたホテル祭りができるほどの美しいホテルを見たい。